

「知識構成型ジグソー法」授業デザインシート

学年	第2学年	教科（教科書）	技術・家庭科（家庭）
学校名	安芸太田町立加計中学校	氏名	和田 伴

1. 対象（授業を受ける児童生徒の概要、普段の学習の様子、扱う内容についての既有知識の予想）

- これまでの家庭分野の学習では、食生活の内容のうち、中学生に必要な栄養の特徴や健康によい食習慣、栄養素や食品の栄養的な特質、食品の種類と概量、献立作成を学習している。
- 今回の授業についての既有知識はアンケートによると「食料自給率」「食品ロス」「地産地消」などの語句は知っているものの内容の理解は不十分である。「フードマイレージ」「エシカル消費」「SDGs」などについては語句も知らない生徒がほとんどである。

2. 教材のねらい（授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか）

- 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択を考えることを通して、
- 目的・栄養・価格・調理の能率・環境への影響などの諸条件を考えて選択することが大切であることを理解できるようにする（B 食生活（3）ア（ア））
- 自分や家族の消費行動が環境や社会に与える影響を自覚し、自分だけでなく多くの人が行ったり、長期にわたって続けたりすることが大切であることに気付くようにする。（C 消費生活・環境（2）ア）

3. 授業のデザイン（「授業の柱となる課題」、最終的にその課題に対して「期待する解答の要素」、その要素を満たした解答を生徒が出すために各エキスパートに担保してほしいポイント、そのために使えるような資料など）

課題	未来につなぐ持続可能な食生活のためにできることを考えよう		
	<p>○このエキスパートでおさえてほしいポイント</p> <p>地球環境とエネルギーの関係。</p>	<p>○このエキスパートでおさえてほしいポイント</p> <p>日本の食料自給率の実態</p>	<p>○このエキスパートでおさえてほしいポイント</p> <p>日本の食品ロスの現状と世界の飢餓（きが）との関係</p>
	⇒具体的に使えるような資料や活動 家庭からの二酸化炭素排出量グラフ、広島県のごみの排出量の推移、主要国の一次エネルギー自給率比較 等	⇒具体的に使えるような資料や活動 我が国と諸外国の食料自給、日本の食品別自給率、フードマイレージ、日本の食事の今と昔 等	⇒具体的に使えるような資料や活動 日本の食品ロスの状況、世界の飢餓の状況、企業の取り組み 等
期待する解答の要素と具体例	<p>食品を選択するときに、賞味期限、価格、見た目だけでなく、環境の視点（持続可能な食生活のために）をもって選択・購入するという意欲を持てるようになる。</p> <p>「地産地消」「環境」「社会」「食品ロス」「ごみを減らす」「日本は～」「未来のために」「考えてから～する」など</p>		